

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

いわき市長 内田 広之

市町村名 (市町村コード)	いわき市 (204)
地域名 (地域内農業集落名)	下桶売地区 (下桶売)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和7年1月16日 (第1回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

・当地域は、中山間地であり平地に比べ耕作条件が不利である。加えて、人口が少なく、農業の担い手となり得る若者が極めて少ない状況である。地元農業者の高齢化が進み、このままでは耕作放棄地が増える恐れがある。

・野生鳥獣の被害が甚大であり、対応に費用と手間が多く、また、捕獲する人材の育成が必要である。

・元地域おこし協力隊員が地ビールを生産するため、地域内の空き家を貸し、工場として活用する予定とのこと。加えて、畑も貸出すとのこと。地域内では、りんどうやネギを栽培している。【川前13区】

・地域内では、牧草や飼料作物を栽培しているが、出荷先がなくなってしまい、規模を縮小せざるを得ない状況である。【殿林】

・試験的に農地に木を植えており、今後は林業にも取組む予定である。農地の草刈りについては、人力による作業は極力避け、機械による作業としている。

地域内の担い手を支えるために水路の泥上げは、地域の住民や農業者で行っている。【川前7区】

・地域内では、水稻を中心に栽培している。【高部】

・以前は、地域内に複数の畜産農家がいたことから、牧草の作付けを行っていたが、現在は畜産農家が1件となってしまうため、農地の維持管理が中心となっている。今後は、地区と畜産農家がマッチングを目指し活動していく。【志田名】

・以前は、牧畜が中心であったが、現在では終了し、農地の維持管理を行っている。【荻】

(2) 地域における農業の将来の在り方

・中山間直接支払交付金を活用しながら、各集落で可能な限り農地の維持管理を行う。

・水稻を中心に栽培しつつ、花卉(リンドウ)や青パパイヤ等の作物についても試験的に栽培を行う。

・飼料作物(牧草)の栽培面積を拡大していく。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	178.0 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	133.4 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	— ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

・農振農用地区域内の農地及びその周辺の農地を農業上の利用が行われる区域とし、その区域と住宅地又は林地との間にある農地は保全・管理を行う区域とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
・認定農業者や認定新規就農者の受入れを促進することにより対応していく。
(2)農地中間管理機構の活用方針
(3)基盤整備事業への取組方針
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
・農業体験や地域住民との触れ合いを通じて中山間地域の農業の魅力や課題を理解してもらい、関係人口の増加や地域振興の担い手確保につなげる。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☒ ①鳥獣被害防止対策	☐ ②有機・減農薬・減肥料	☒ ③スマート農業	☐ ④輸出	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☒ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☐ ⑨耕畜連携	☐ ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

- ①地域による鳥獣被害対策として電気柵の維持管理や農道の草刈りを継続していく。
 ③地域内の農地は、狭い農地多く、農業者の高齢化により人力での作業も難しいことから、ラジコン式の草刈り機を導入し、人力による作業を減らしていく。
 ⑦中山間直接支払交付金を活用し、可能な範囲でほ場や農道の草刈りを行っていく。